

2009年3月期 決算概要

2009年5月11日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2009年3月期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2009年3月期 業績概要

- 第4四半期は、半導体売上高・営業損益とも前回想定(1月29日)より悪化
- 体質改善の前倒しを実行

II. 2010年3月期 業績見通し

- 通期では、前年度比12%減収の見通し
- 年間で900億円の固定費削減(1月29日発表時から300億円追加)を中心とした体質改善施策を加速させ、営業黒字化を目標とする

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、2009年3月期の業績は、市況悪化の影響を受け、売上高が大きく減少いたしました。損益に関しましても、売上の減少に加え、体質改善を前倒して実施したことなどにより、前年度比で大きく悪化しました。

第4四半期の業績に関しましても、1月29日に発表いたしました想定に対して悪化いたしました。

次に、2010年3月期の業績見通しでございますが、通期では約12%の売上減を見込んでおりますが、年間で900億円の固定費削減を実行し、営業黒字化を目標といたします。

I. 2009年3月期 業績概要

<サマリ>

<第4四半期>

<通期>

II. 2010年3月期 業績見通し

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

09/3期 業績の概要

NEC

(単位:億円)

	09/3期					
	4Q			年度計		
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年度比	前回(1/29)予想比
売上高	855	△804 -48.5%	△418 -32.8%	5,465	△1,413 -20.5%	△85
半導体売上	807	△747 -48.1%	△420 -34.2%	5,217	△1,315 -20.1%	△83
営業損益	△533	△536 -	△371 -	△684	△734 -	△134
税前損益	△692	△625 -	△491 -	△893	△861 -	△273
当期純損益	△608	△488 -	△409 -	△826	△666 -	△176

為替レート前提

1US\$=	91円	18円高	10円高	101円	15円高	
1ユーロ=	120円	40円高	17円高	146円	15円高	

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

4

まず、実績のサマリでございます。

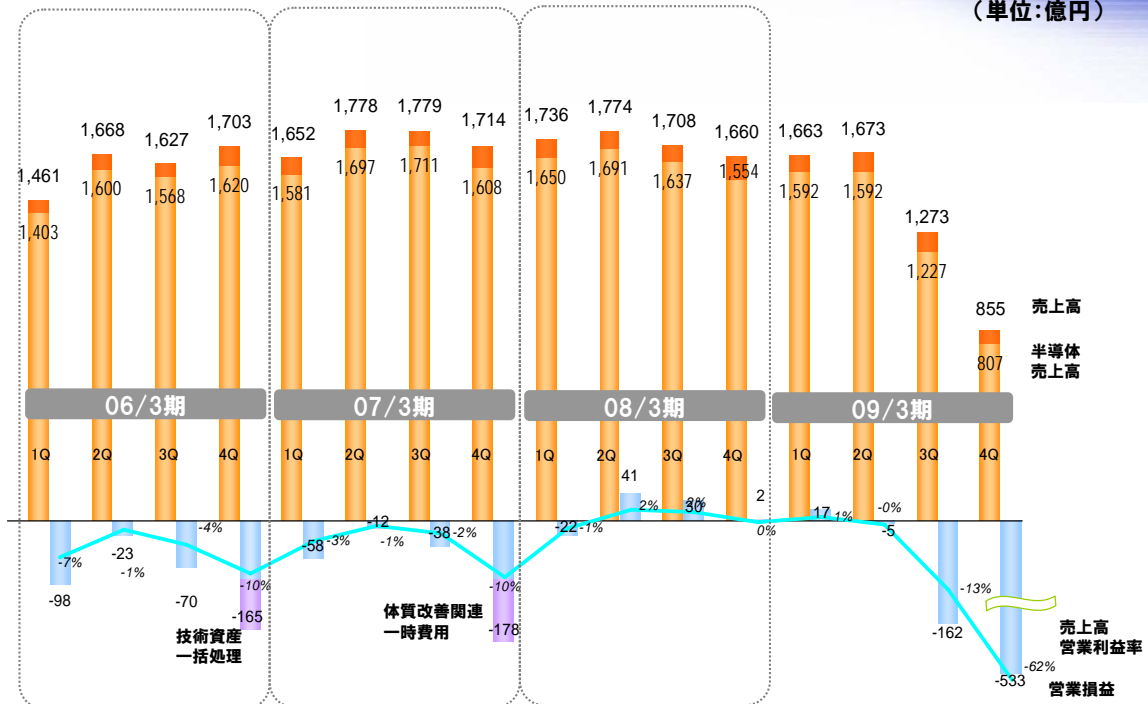
2009年3月期の半導体売上高は、前年度との比較で1,315億円減収の5,217億円となりました。営業損益は684億円の損失で、前年度比では734億円減益となりました。

税前損益は、係争案件に関する損失引当金の計上などにより、893億円の損失となりました。

当期純損益は、税法改正に伴う繰延税金負債の一部取り崩しなどにより法人税が減額となったものの、826億円の損失となりました。

四半期別業績推移

(単位: 億円)



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移でございますが、第4四半期の売上高は、四半期として過去最低の売上高に留まり、損益においても大きな赤字となりました。

I. 2009年3月期 業績概要

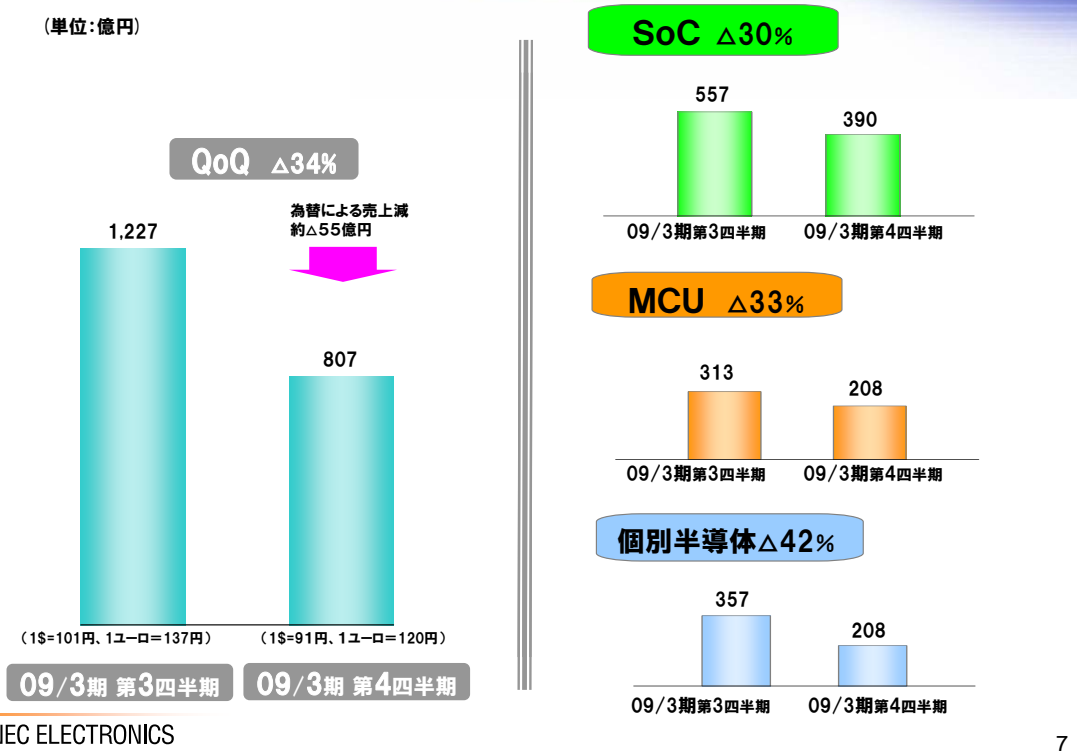
<サマリ> <第4四半期> <通期>

II. 2010年3月期 業績見通し

それでは2009年3月期の業績概要をご説明いたします。
まず、第4四半期の業績について、簡単にご説明いたします

第4四半期(1-3月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)



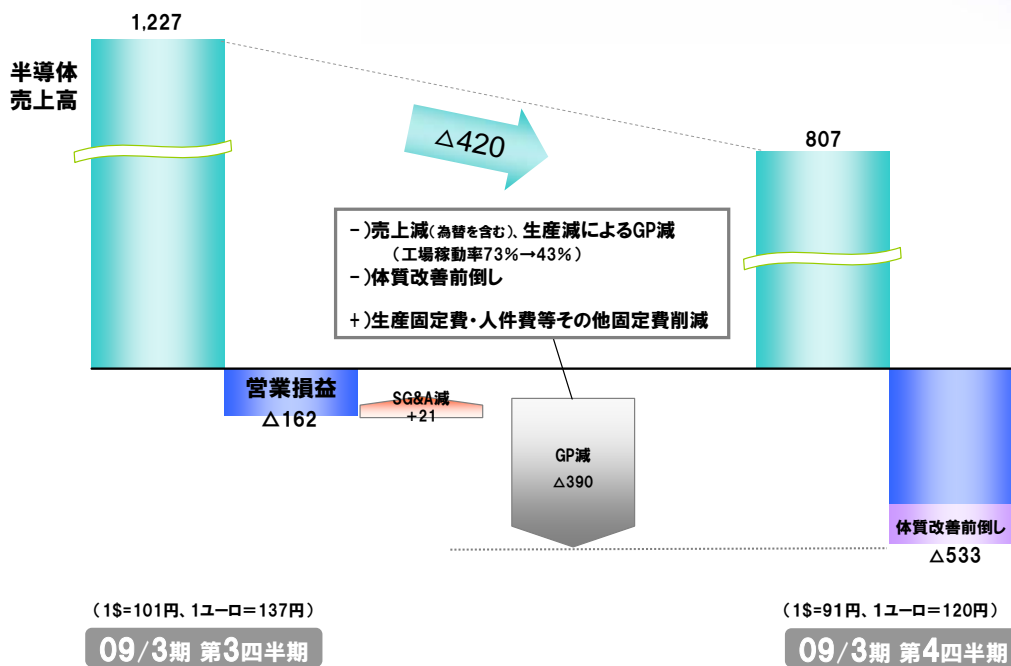
7ページは第4四半期の製品群別の半導体売上高についてお示しています。

前四半期と比較して、全ての製品群で大幅な減収となりました。

第4四半期 営業損益の主な増減要因

(単位: 億円)

QoQ



注 GP: 粗利益、SG&A: 販売費および一般管理費

8ページは、第4四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

この第4四半期に大きく営業損益が悪化した要因としましては、半導体売上高の減少に加え、たな卸のスリム化など体質改善の前倒しを実施したことによるものです。

営業外損益・法人税等

NEC

(単位:億円)

	08/3期	09/3期		
	年間	9ヶ月累計	4Q	年間
	△83	△51	△159 (悪化)	△210
営業外損益	主な雑収益			
	主な雑損失		係争案件に関する損失引当金 生産再編関連費用	
法人税等	123	17	△78 (改善)	△61
			税制改正による繰延税金負債の一部取り崩し等	

NEC ELECTRONICS

9

9ページでは第4四半期の営業外損益と法人税等についてご説明致します。

営業外損益につきましては、従来リスクとして開示していた係争案件に関する損失引当金や生産再編に伴う費用などを雑損失に計上いたしました。

また法人税等は、税制改正による繰延税金負債の一部取り崩しを計上したことなどにより、78億円の減額となりました。

I. 2009年3月期 業績概要

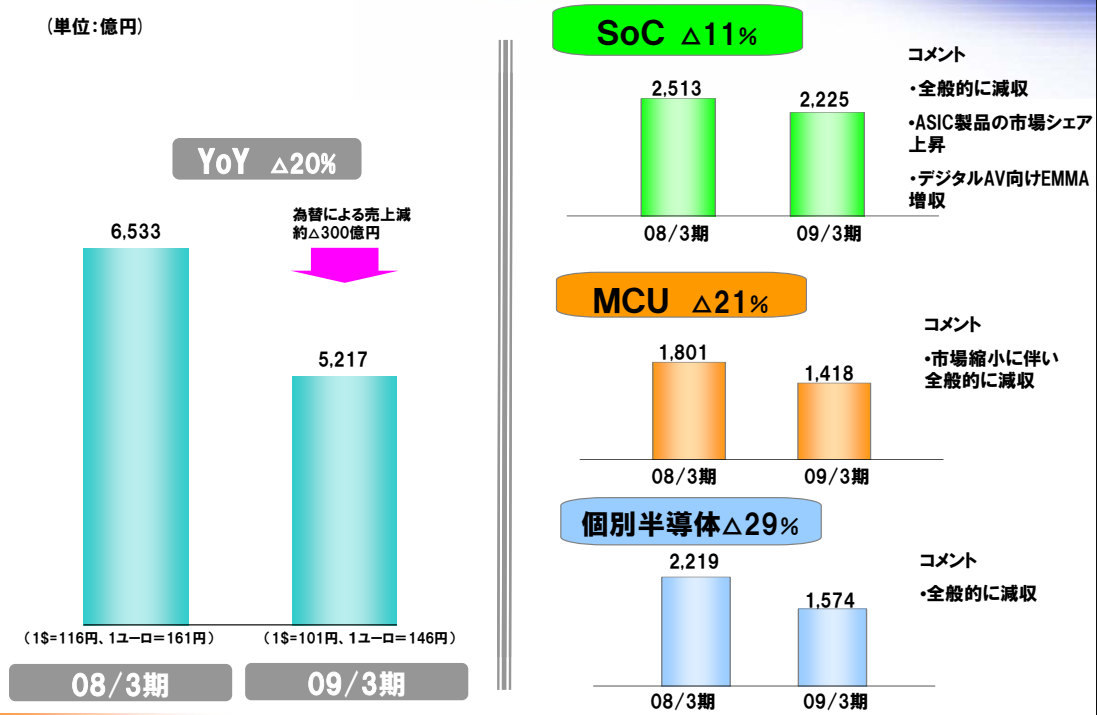
<サマリ> <第4四半期> **<通期>**

II. 2010年3月期 業績見通し

次に、2009年3月期通期での業績概要についてご説明いたします。

09/3期 半導体売上高推移

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

11

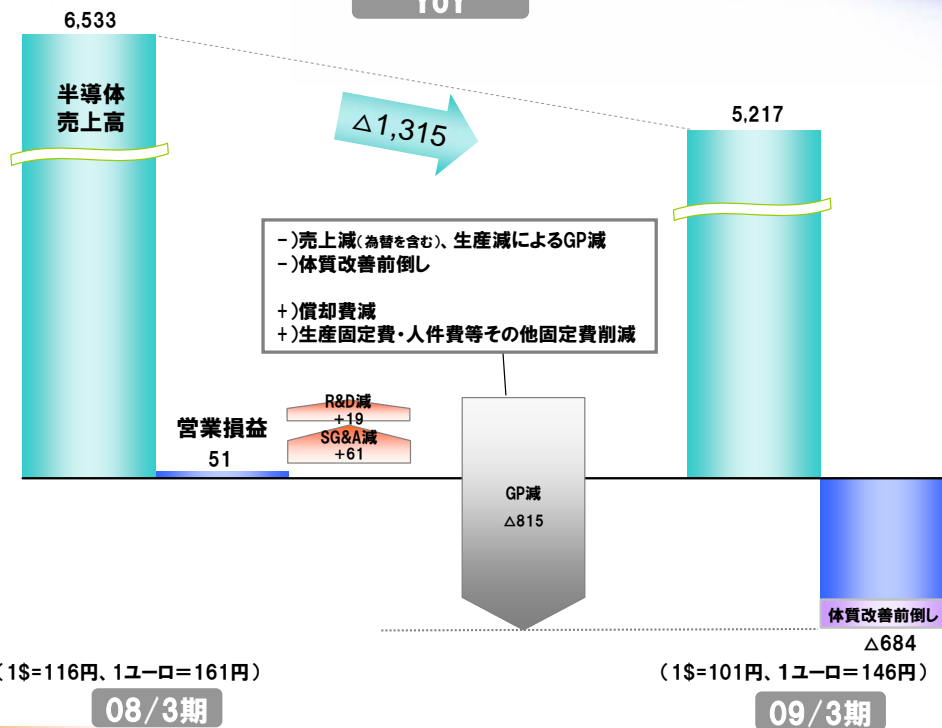
11ページは2009年3月期の製品群別の半導体売上高についてお示しています。

前年度と比較して、全ての製品群で減収となりましたが、SoCはゲームが堅調に推移したことや、上期のブルーレイ市場の立ち上がりが寄与したことなどにより、約1割の減少に留まりました。

09/3期 営業損益の主な増減要因

(単位:億円)

YoY



12ページは、2009年3月期の営業損益を前年度と比較したものです。

下期以降の急激な市況悪化の影響を受け、工場稼働の悪化や体質改善を前倒して実施したことによる費用を計上したことなどにより、営業損益は684億円の損失となりました。

バランスシート

NEC

(単位:億円)

	08/3	08/12	09/3
現金および現金同等物	1,655	1,565	1,013
受取手形および売掛金	964	681	525
たな卸資産	758	821	632
有形固定資産	2,591	2,447	2,421
その他の資産	195	280	235
総資産	6,163	5,794	4,825
支払手形および買掛金	1,073	1,109	788
社債および借入金	1,166	1,170	1,169
その他の負債	1,601	1,494	1,547
負債	3,840	3,773	3,503
少数株主持分	52	52	41
株主資本	2,271	1,969	1,281
負債、少数株主持分および資本合計	6,163	5,794	4,825
D/Eレシオ(グロス)	0.51倍	0.59倍	0.91倍
株主資本比率	37%	34%	27%

NEC ELECTRONICS

13

13ページは、バランスシートでございます。

3月末時点の現金および現金同等物は、12月末比で552億円減少したものの、1,000億円以上のレベルを維持いたしました。

たな卸資産は632億円となり、12月末比で大きく減少いたしました。これは、11月中旬以降の受注減を受けて、ウエハ投入を抑制したことや、第4四半期に一段と踏み込んだ大規模な生産調整をしたことなどによるものです。

DEレシオは0.91倍、株主資本比率は27%となりました。

キャッシュ・フロー

NEC

(単位：億円)

	08/3期		09/3期		
	4Q	年度計	3Q	4Q	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	5	433	105	△363	△69
投資活動による キャッシュ・フロー	△43	△378	△72	△187※	△493
フリー・ キャッシュ・フロー	△38	55	33	△550	△562

※主に3Q以前に納入した設備代金

NEC ELECTRONICS

14

14ページは、キャッシュフローでございます。

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費等の計上額が673億円であったものの、当期純損失を826億円計上したことなどにより、69億円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の抑制に努めましたが、493億円の支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュ・フローは562億円の支出となりました。

なお、第4四半期の投資活動によるキャッシュ・フローは、第3四半期以前に納入された設備代金の支払が計上されたことなどにより、187億円の支出となりました。

I . 2009年3月期 業績概要

II . 2010年3月期 業績見通し

それでは、2010年3月期の業績見通しについて、ご説明いたします。

10/3期 業績予想

NEC

通期営業黒字化を目標とする

(単位：億円)

	10/3期					
	上期		下期		通期	
	予想	前年同期比	予想	前年同期比	予想	前期比
売上高	2,150	△1,186	2,650	+521	4,800	△665 △12.2%
半導体売上	2,050	△1,134	2,550	+516	4,600	△617 △11.8%
営業損益	△250	△262	250	+946	0	+684
税前提損益	△265	△265	190	+1,083	△75	+818
当社株主に帰属する 当期純損益	△270	△251	180	+987	△90	+736

為替レート前提

1US\$=	95円	10円高	95円	1円高	95円	6円高
1ユーロ=	125円	38円高	125円	4円高	125円	21円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:「当社株主に帰属する当期純損益」は、2008年度までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

注3:予想値は2009年5月11日現在

NEC ELECTRONICS

16

今年度の業績予想の前提は1ドル95円、ユーロは125円です。

半導体売上高は4,600億円と、昨年度と比べて12%の減収と考えております。

営業損益に関しましては、大幅な固定費削減施策を実行し、通期での黒字化を目標といたします。

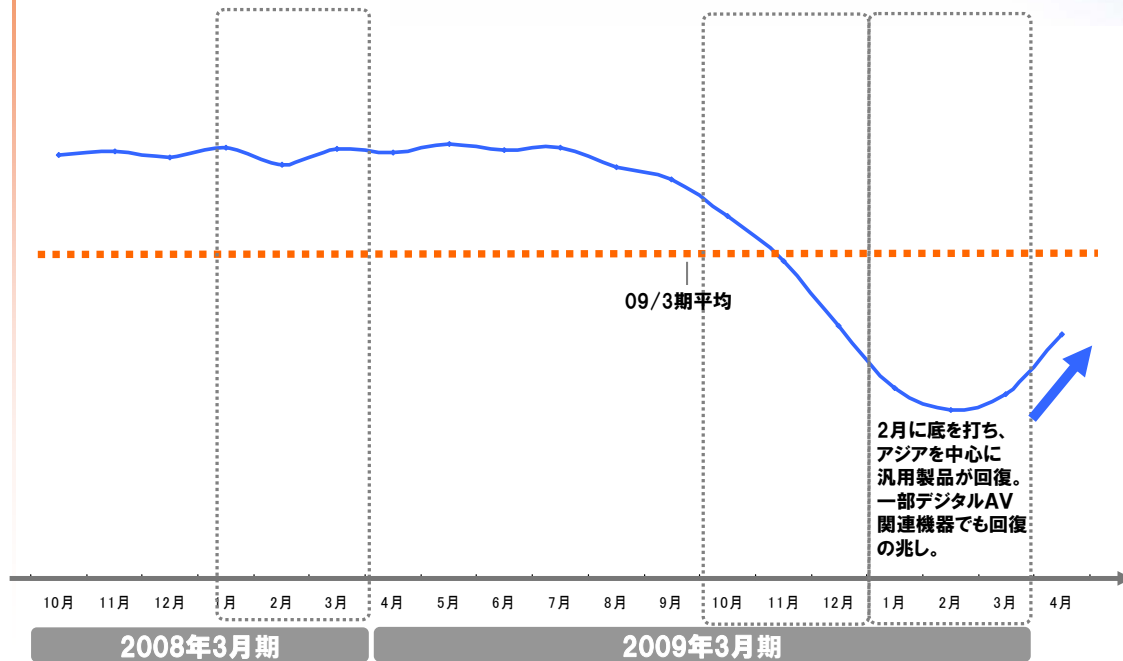
税前提損益は75億円の損失、当社株主に帰属する当期純損益は90億円の損失を見込んでおります。

その前提などをこれからご説明いたします。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

17

17ページは、いつもお示している当社の半導体受注高の推移を3カ月移動平均で示したものです。

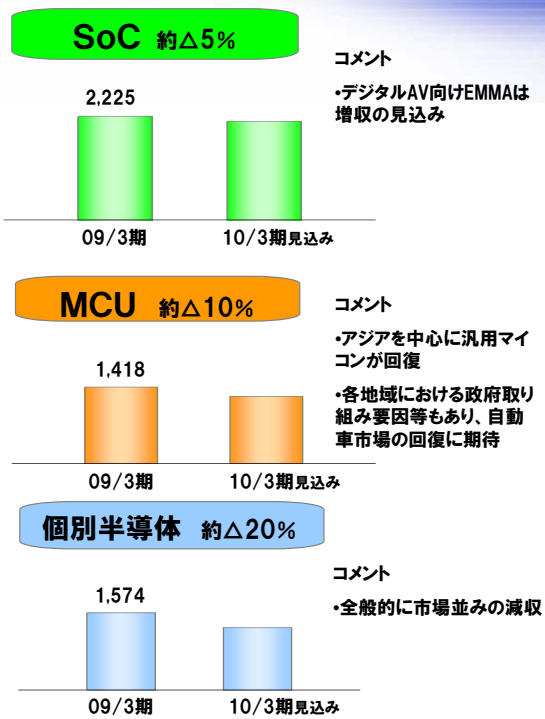
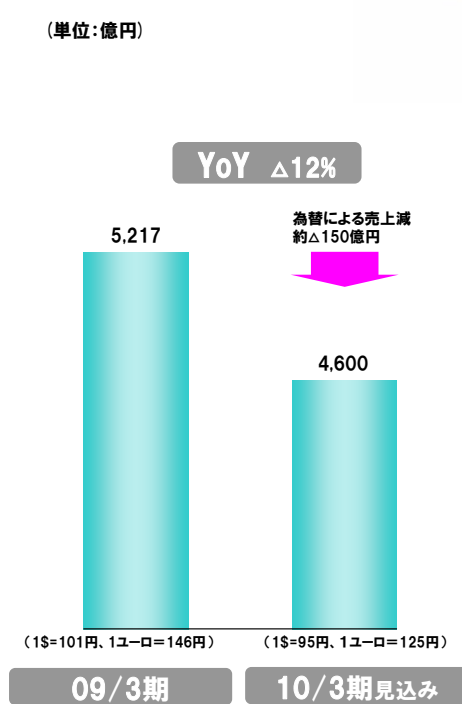
当社の半導体受注高は、2月に底を打ち、回復に向かっております。特に中国をはじめとするアジアにおいて、マイコンなど汎用製品を中心に受注が増えております。一部デジタルAV機器に関しても、回復の兆しが見えてまいりました。

4月においても、受注は順調に伸びました。

10/3期 半導体売上高見込み

NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

18

今年度の半導体売上高を製品別にお示ししたのが、18ページでございます。

前年度と比較して、全ての製品群で減収を見込んでおります。

SoCに関しては、約5パーセントの減収を見込んでおりますが、デジタルAV向けEMMAなど一部製品は増収を見込んでおります。

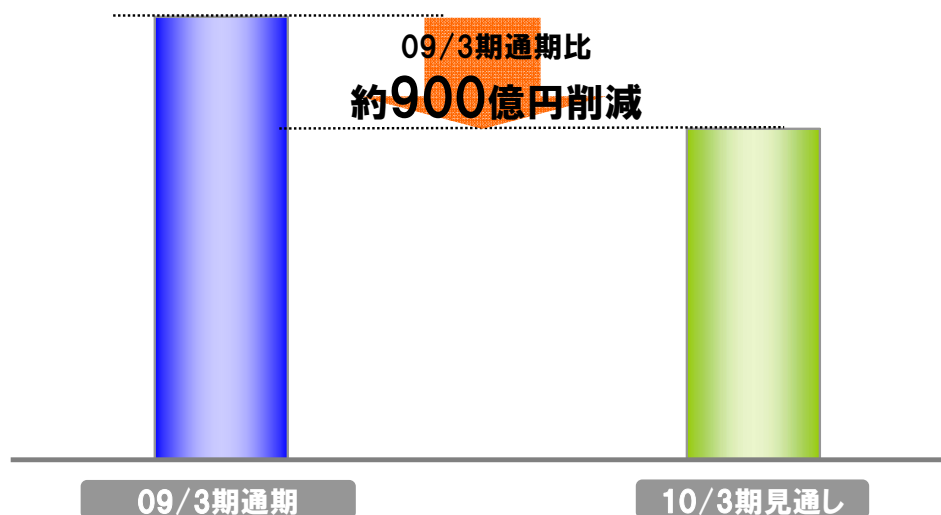
MCUに関しては、自動車・汎用とも減収を見込んでおりますが、アジアを中心とした汎用マイコンの回復や、下期にかけた自動車市場の回復に期待しております。

10/3期 固定費削減計画

NEC

10/3期 固定費を約900億円削減
(1月発表時より約300億円の追加削減)

(09/3期上期の固定費の2倍から約1,000億円削減)



NEC ELECTRONICS

19

19ページは、今年度の固定費削減計画でございます。

半導体売上高の減少が見込まれるなか、当社は体質改善施策を更に加速させ、固定費を前年度比で900億円削減いたします。これは、1月発表時より、300億円の追加削減となります。

900億円固定費削減施策

NEC

■ 体質改善施策によるコスト効率化 約800億円

- 設備関連費用の効率化（約220億円）
減価償却費・リース料、設備メンテナンス費用、用力費減など
- その他生産関連費用の効率化（約300億円）
国内外の人員減、時間外勤務減、派遣従業員減、業務委託費減など
- 研究開発関連費用の効率化（約200億円）
開発品種の見直しによる外注費削減など
- その他費用の効率化（約80億円）

・生産ラインの閉鎖（08年末）
山形8インチ、相模原試作ライン
・生産減に伴う各種費用の効率化

■ 緊急施策によるコスト削減 約100億円

- 人件費の削減（賞与減など）
- 全社緊急費用削減

NEC ELECTRONICS

20

20ページでは、固定費900億円削減の内訳をお示ししています。

具体的には、体質改善施策による固定費削減が800億円、緊急施策による固定費削減が100億円という内訳です。

体質改善施策によるコスト効率化約800億円の内訳は、

投資の抑制による償却費の減少や、設備メンテナンス費用、用力費の削減など、設備関連費用の効率化による削減が約220億円、

勤務シフト等による時間外勤務費用の減少、派遣従業員の削減、業務委託費の抑制など、その他生産関連費用の効率化による削減が約300億円、

開発品種の削減や開発効率の改善など、研究開発関連費用の効率化による削減が約200億円、

その他費用の効率化による削減が約80億円、

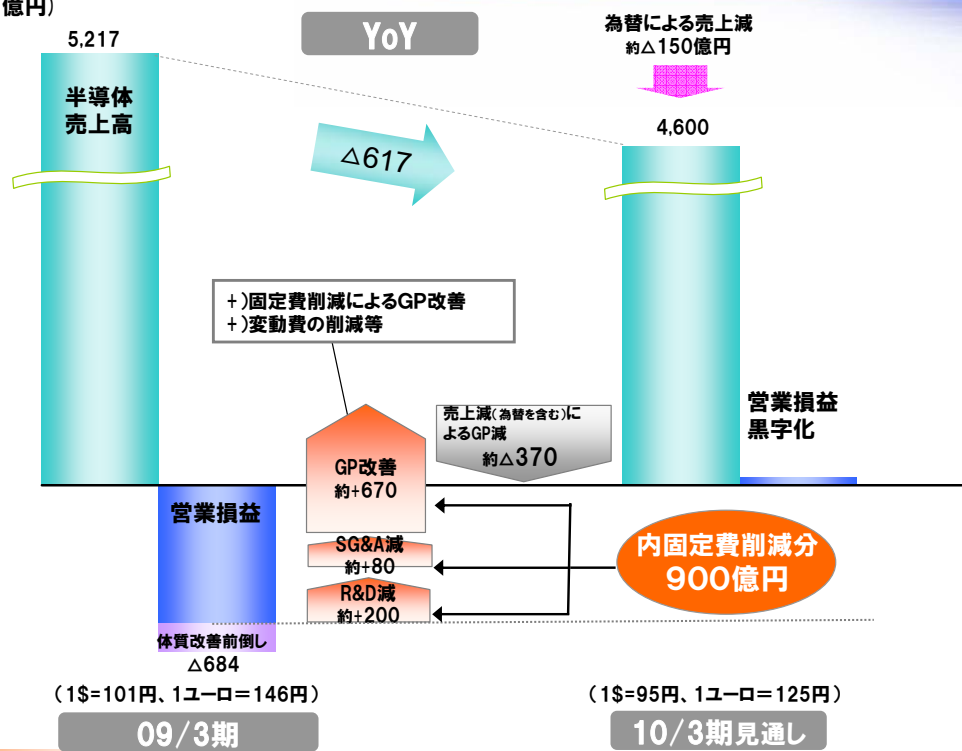
となります。

緊急施策によるコスト削減約100億円に関しましては、大幅な賞与減など、あらゆる経費の緊急削減を行います。

10/3期 営業損益の主な増減要因

NEC

(単位：億円)



NEC ELECTRONICS

注 GP：粗利益、R&D：研究開発費、SG&A：販売費および一般管理費

21

21ページは、2010年3月期の営業損益を前年度と比較したものです。

半導体売上高の減少によるGP減はあるものの、固定費を900億円削減することなどにより原価率を大きく改善し、通期の営業黒字化を目指します。

体質改善のための構造改革をさらに加速

- 1月発表時より固定費削減を増額、通期で約900億円の固定費削減を断行
- 今年度の営業黒字化を目指す

ルネサス テクノジとの経営統合検討を進め 新たな成長と収益向上を目指す

最後に本日のまとめでございます。

まず、当社は、1月発表時より300億円増額となる、900億円の固定費削減施策を実行し、通期での営業黒字化を目指します。また、これらの体質改善を加速させることにより、健全な事業基盤を整えます。

加えて当社は、4月27日に発表いたしましたとおり、ルネサス テクノジとの経営統合に向けて協議を開始いたしました。新たな成長と収益向上のために、7月の最終合意を目指して協議を進めてまいります。

引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。
ありがとうございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

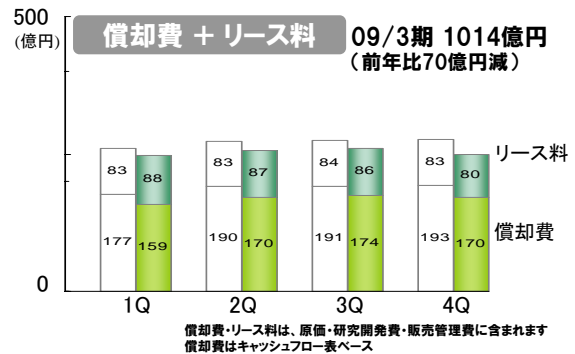
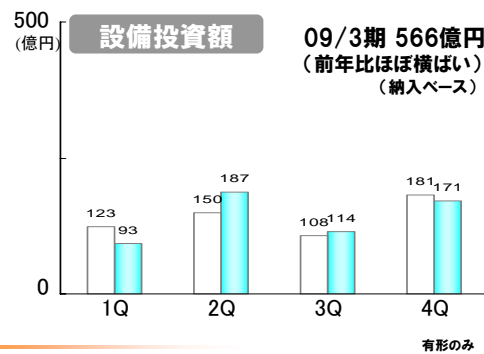
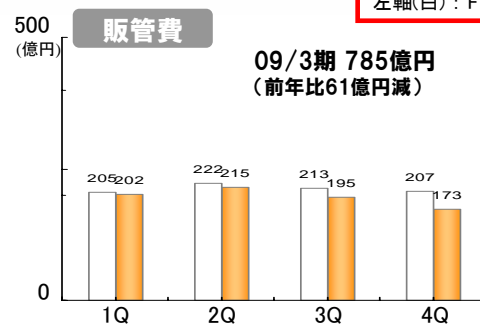
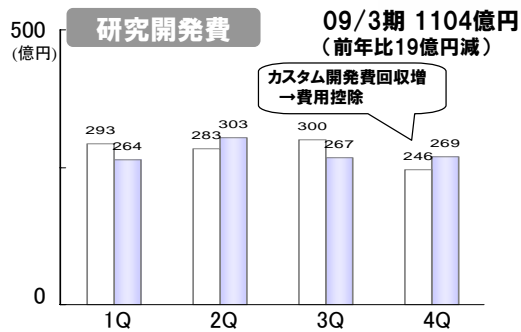
(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

補足資料

09/3期 営業費用・設備投資など

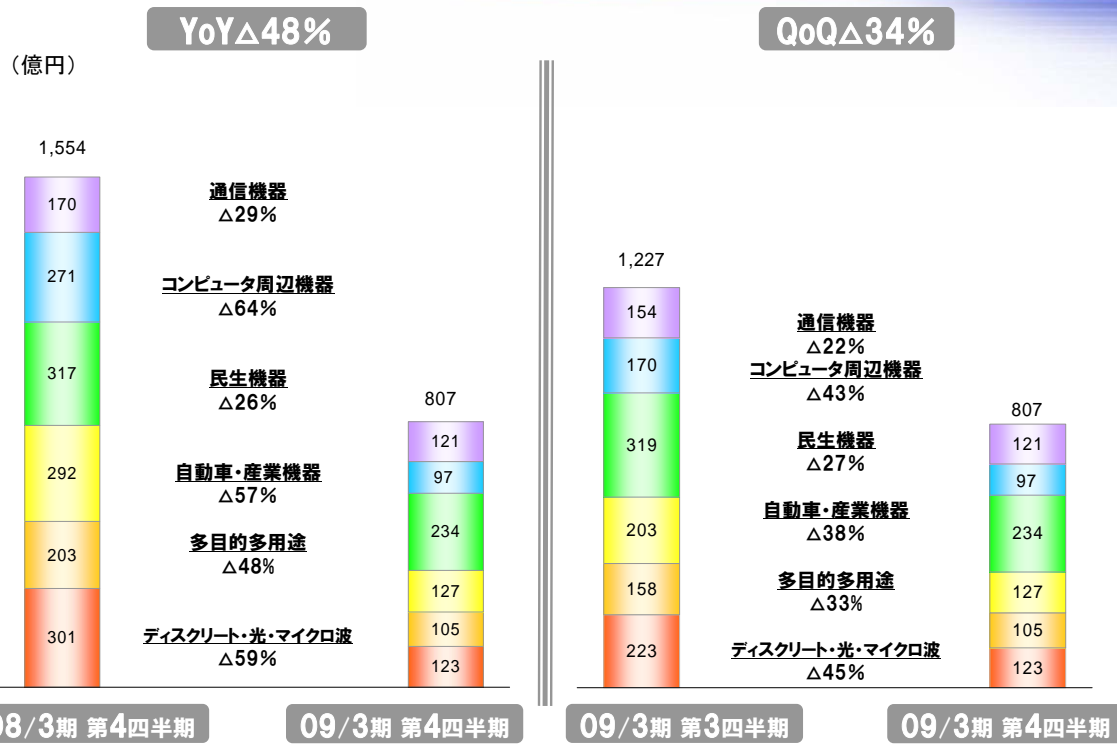
グラフの凡例
 右軸(色) : FY09/3期
 左軸(白) : FY08/3期



償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
 償却費はキャッシュフロー表ベース

第4四半期 半導体売上高(分野別)

NEC



08/3期 第4四半期

09/3期 第4四半期

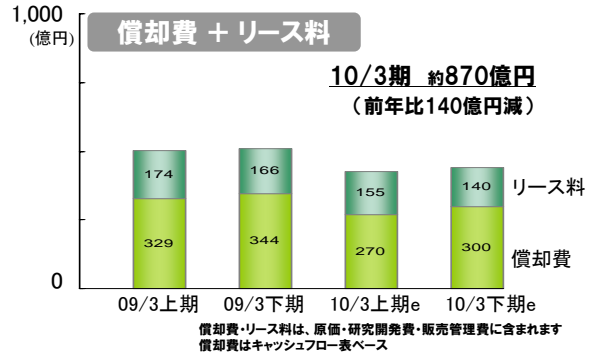
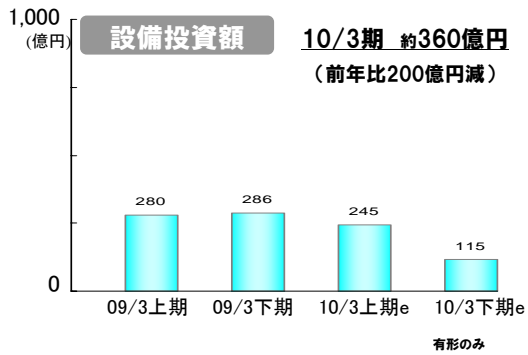
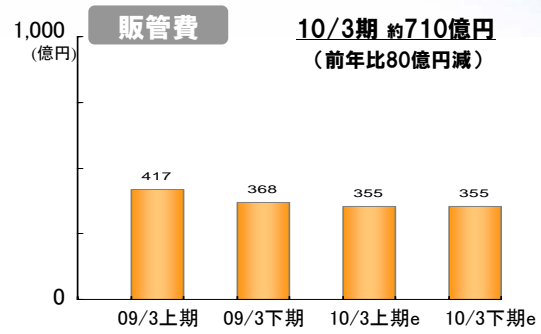
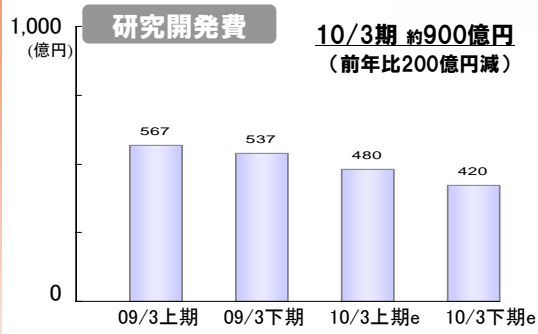
09/3期 第3四半期

09/3期 第4四半期

NEC ELECTRONICS

26

10/3期 営業費用・設備投資等の前提



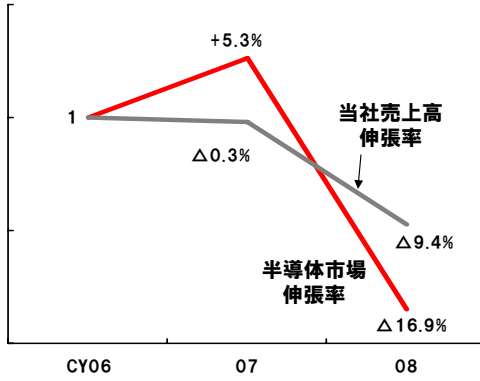
半導体市場における当社ポジション



当社は、CY08の市場平均より売上減を抑え、シェア拡大

市場伸張率と当社伸張率

※CY06を1とした場合



当社ランキング

CY06	CY07	CY08
		10位 NECエレ
12位 NECエレ	12位 NECエレ	

出典: ガートナー「Semiconductor Industry Worldwide Annual Market Share: Database」2008年4月2日、2009年4月2日
 「2009 Semiconductor Forecast Worldwide: Forecast Database」2009年3月23日
 NECエレクトロニクスによって円建てにて算出

免責事項

ここに述べられたガートナーのレポート(以下「ガートナーのレポート」)は、ガートナーのシンジケート調査サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この目録見直し/企業レポート発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

“ecoプロダクト”で売上成長を牽引

CO2排出削減を実現する“ecoプロダクト”に経営資源を集中



主な製品群
低消費電力デバイス
エコマイコン、DRAM混載
ASICなど
省エネ製品に貢献する
デバイス
エアコン用マイコン、自動車燃
費改善マイコン、システム電源、
モータドライバなど

自動車、デジタルコンシューマ、汎用マイコン
などの注力分野を活かす“ecoプロダクト”